



ペチヤクチャ カナダ人

英語指導助手/アシュリー・ペトルリッチ

Brr...I'm Cold!

When my friends and I were elementary school students, our parents used to offer the following wise advice on cold winter days: "Whatever you do today, don't touch a metal pole with your tongue; it will freeze to the pole".

Luckily for me, I actually listened to my parents. Or perhaps it was because I had little interest in licking frozen metal poles. Either way, it was not my tongue that was stuck to the pole. Oh no, my poor friend, out of elementary school naivety stuck out her tongue, touched the pole, and there it was....stuck to the pole. (Yes, we laughed.) My friend however, did not laugh and I dare not divulge the disgusting ordeal of removing her tongue from its painful location.

The point of my frozen tongue story is the following: a Hokkaido winter might be cold and there might be a LOT of snow, but a Canadian winter is by far, much, much colder. So when you're shivering in your boots, just remember those terribly cold Canadians and the elementary students with very sore tongues.

ブルッ、あー寒い!!

私がまだ小学生だった頃、さむ〜い冬の日には、両親がよくこんな賢明なアドバイスをくれました。「今日何をしてもいいけど、金属性の電柱だけは舐めたらだめよ! くっついちゃうからね!」

幸い私は親の言うことをよく聞く子。もっとも凍った電柱に興味が無かっただけなのかも。ともあれ電柱に舌がくっついてしまったのは私ではなく、かわいそうな友達でした! 小学生ゆえの無邪気さから舌を出し、それが電柱に触わり、なんとホントに取れなくなってしまったのです(ええ、相当笑いました)。でも当然のことながら本人は笑えませんでした。まあ、どうやって舌をひっぺがしたかは内緒ですけど。

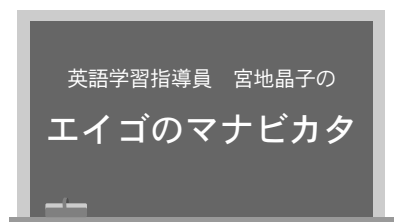
ともかくにも、北海道も寒くて雪が多いかもしれませんが、カナダの冬はそれよりずっとずっと寒いです。長靴履いて震えるときは、もっともって寒いカナダの人たちと、痛い痛い思いをした小学生のことを思い出してみてください。

(訳: 宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

寒いカナダがいいか、雪の多い北海道がいいかは比較の難しいところですが、寒さの表現は北海道弁と英語で共通点が多いような気がします。よく冷えた日をシバレルといいます。寒さで震えることを英語ではシバリン「shivering」と言います。またシバレルは凍結を意味しますが、同じように寒いことをフリージング「freezing」(凍るような)と言います。それに「雪投げ」のように物を捨てることを「投げる」と言いますが、本州ではギョツとされるこの表現も英語なら同じように「throw away」(投げる)と言います。

以前、フランスを旅行中にバスに乗りました。キャンパスを探していたのですが、バスを降りたら何もありません。その時一緒に降りたのは、見るからにパンクロック青年一人だけ。鼻ピアス、皮ジャン、腰からチェーンじやらじやら。髪の毛だつて立っている。でも彼しくない。仕方なく尋ねました。「キャンパスはどこでしょう」。無愛想な彼は「こっち」というように首を振りました。道はほとんど細くなり森の中へ。こちらはいつでも逃げられるように警戒中。その時彼が言ったのです。「学校でね、こういう格好してらるってだけでワルイ嫌になっちゃうよ。人は見



第45回

先入観を捨てたら

あけじゃないのにね」。ああ。疑っていた自分が恥ずかしい。でも先入観って確かにありますよね。こんな実験をご存知ですか。低学力児童のグループを作りませう。そして先生に「優秀な児童です」と言って任せませう。するととてもよくできた、というものがびっくりしませんか。この場合は先入観が良いほうに働いたといえます。残念な例では、中学生。小学生の時から、周りから「だめだ、だめだ」と言われ続け、本人自身が自分のことをあきらめている。大人もそうです。学生時代、英語が駄目だったからと、今もできないと信じ込んでいます。でも今の自分は、学生時代の自分よりはるかに成長しているのです。社会でいるんなことに対応する能力をつけてきたのです。語学は若い方が良く、と言います。でも習い事に関しては大人になって全体を見渡せる分、習得が早いのです。まずは自分に対する思い込みを捨てて、「やればできる」と決めてしまえばいいでしょう!